

2014年2月5日

株式会社損害保険ジャパン
日本興亜損害保険株式会社

2013年度 東日本大震災復興支援「社員派遣プログラム」最終報告会の開催

株式会社損害保険ジャパン（以下、「損保ジャパン」）および日本興亜損害保険株式会社（以下、「日本興亜損保」）は、東日本大震災復興支援「社員派遣プログラム」最終報告会を2013年12月16日(月)に開催しました。

当日は、社員・関係者約180名が参加し、派遣社員からの活動報告や、有識者を交えたパネルディスカッションを行い、気づきや学びを共有しました。

1. 東日本大震災復興支援「社員派遣プログラム」の概要

被災地復興に必要とされる支援が短期的なボランティアから中長期的な支援へと変化するとともに、マネジメントスキルをもった企業人材のニーズが高まってきたことから、損保ジャパンでは、昨年度から被災地復興に取り組むNPOに社員をサポート役として社員を派遣する「社員派遣プログラム」を実施しています。

今年度は、損保ジャパンと日本興亜損保の両社で「一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会 南相馬ソーラー・アグリパーク(以下「南相馬ソーラー・アグリパーク」)へ2013年7月29日(月)から10月18日(金)まで、10日間のプログラムを計4回、合計9名の社員を派遣しました。

今年度は、facebook のコミュニティを開設し、活動状況を共有することで、現地に赴かない社員も参加できるプログラムとしました。

(ご参考) http://www.sompo-japan.co.jp/~media/SJcms/news/2013/20130726_1.pdf

2. 最終報告会内容

第一部 派遣社員報告

第一部では、社員派遣プログラムに参加したメンバーが、現地での活動をリレー形式で紹介しました。派遣社員は、南相馬ソーラー・アグリパークでの体験学習・サマースクールのサポートを実施するなど、団体の代表者・現地スタッフとのコミュニケーションを重ねながら、課題解決に取り組みました。

具体的には、体験学習の充実を目的としたワークシートの改善・品質向上のための仕組みづくり、助成金申請書類の作成、太陽光パネルオーナーの拡大策提案、地元連携先の開拓・ヒアリング、地域イベントの立案・企画・参加などです。

派遣社員からは、「自分達が現地を離れた後も継続して使用できるツールやプロジェクトの提案を心がけた。」、「議論をしながら最適な解を導く過程の中で、価値観の異なる方々とのコミュニケーション能力が磨かれた。」などの感想が聞かれました。

第二部 パネルディスカッション

第二部では、参加者とNPO法人ETIC代表理事 宮城 治男氏、IIHOE代表 川北 秀人氏がパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、「企業人としてのどのような経験・ノウハウが団体の支援に役立ったと思うか。現地でどのようなことにやり甲斐を感じたか。今回の経験を会社で今後どのように活かしていくか。」などが話し合われました。

派遣社員からは、「コールセンターのモニタリング機能や、フィードバック手法などのノウハウを応用・活用することができた。」「現地では日々の業務と違い、課題を自ら発見していくというゼロからのスタートだった。仮説が覆されることもしばしばあったが、次のステップに進めていく過程が新鮮でやりがいを感じた。」「団体代表の『震災復興支援に携わるスピード』と、『情熱を持って新しいことを切り開いていく姿勢』を間近で見ることができ、今後自分もこのような姿勢で日々の業務に取り組んでいきたいと感じた。」などの発表がありました。

3. 今後について

損保ジャパンおよび日本興亜損保は、今後も、現地のニーズにあわせた継続的な復興支援活動を行っていきます。

以上



【第一部 活動報告の様子】



【第二部 パネルディスカッションの様子】